

平成29年度第1回県南広域振興圏地域協働委員会議での委員の意見に対する対応状況等

No.	御 見 意	内 容	担当部	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針
1	若者の地域の定着については、大学進学後、岩手に戻ってくるという施策が薄いのではないかと。小学校中学校や普通高校在学中に県南エリアの仕事をたくさん見せて、岩手に働く場所があることを知ってもらいたい、岩手では働くイメージを持って進学する卒業生に返ってくるのではないかと。	経営企画部 (人材育成労働G)	ものづくり分野については、北上川流域のものづくりネットワークで小学生、工業高校生を対象としたものづくり企業の見学を行っています。その他、普通高校等の企業見学については振興局で支援するなど、地元企業理解促進の取組を行っています。大学生については、県外に進学した学生に管内のものづくり企業の魅力伝えるため、今年度新規事業として、県外大学生と地元企業の相互理解の促進に向けた企業見学会を開催し、首脳圏、仙台圏の大学生を対象に、ものづくり企業の見学や経営音等との懇談会を開催しました。	
2	県外の大学生を地元に戻ってくるようという取組みも大事かもしれないが、県外から岩手に来てくれる学生を地元就職に導かせるといふ視点も大事なのではないか。若者の岩手への定着は住環境・文化の面がポイント。職ばかりが目が行きがちではないか。	経営企画部 (人材育成労働G)	県内の仕事や就職情報などを掲載したガイドブック、カレンダー等のPRデータを盛り込むなど、岩手の優位性について多面的に紹介し、PRに努めています。また、県内各大学のインターンシップ事業や工場見学の支援、理工系大学生等を対象とした奨学金返還支援制度を創設したほか、今年度新たに「いわてで働く」ことの魅力を感じてもらおう「岩手で働くこう総会イベント」を実施するなど、若者の県内就業の促進に取り組んでいます。	
3	地元の子は、地元にとどくような企業があつて、どのような仕事があるのか把握していない子が多いと感じる。地元と行政とが提携し、就職先や仕事について子どもたちにわかりやすく説明やかにかに教えることができれば、岩手に定着してくるのではなないか。	経営企画部 (人材育成労働G)	各地域の団体が実施する取組について、県としてどのような連携や支援ができるか、団体を始め市町村や関係機関と情報交換してまいります。	
4	台湾人は温泉と雪と寺が観光スポットであり、全部岩手県内で見られるということを強みに、後藤新平や偉人との組み合わせで岩手県独自の観光プランをあわせて進めていけばよいのではないかと。	経営企画部 (観光商業G)	台湾からの誘客に向け、県南広域振興圏では、体験メニューや観光ルートを提案するハンフレットを昨年度作成し、後藤新平記念館を組み込んだモデルコースや新渡戸稲造、伊能嘉矩といった台湾とゆかりのある偉人の紹介をしているところろです。今後いただいた御提言を参考に、こうした魅力を生かし、台湾からの誘客の促進に努めてまいります。	
5	子育てしながら働きやすい環境整備について、企業の事業所内保育の整備だけでなく、地域の保育施設の設備や機能についても支援したほうがよいのではないかと。	保健福祉環境部	地域の保健施設の整備支援については、市町の子ども・子育て支援事業計画に基づく保育所整備に係る国の保育所整備交付金や延長保育事業に関する補助事業等について支援を行っています。	

No.	御 意 見 内 容	担 当 部	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針
6	Uターンや高校や専門学校を卒業した方の定着について、岩手県の住みよさの指標もPRすべきと考える。田舎には最新のファッションや雑貨、交通、高度な教育はないが、生活の質はこちらのほうが高いと思うので、報道や国で発表している数値を取りと東京の現実問題としてお知らせし、意図は見るとどうか。ホームページは見られれば意味がない。ビュアを増やす努力やイイイメージなど若い感性をとらえるイメージを使うべき。	経営企画部 (ふるさと振興 支援G)	県内の高校3年生の卒業時に、県内の産業者や岩手と東京の暮らしの比較等を掲載した「知ってる？いわてのいいところ」というカレンダーを全員に配布しています。また、本県への移住・定住の促進を図るため、学生を対象とした就職説明会や、県外での移住相談会などで配布しているガイドブック「イイ・ハート」の一部に入ろう」において、地方暮らしの収支や通勤・通学時間、医療、教育などについて東京と岩手を比較したデータ掲載しています。なお、ガイドブック「イイ・ハート」には、県ホームページでも御覧いただくことができます。今後、これらの資料を活用しながら、Uターンや地元定着の促進に向け、本県の住みよさをPRしていきます。
7	観光分野について、平泉、釜石の世界遺産をはじめ、2019年のラグビートップ開催、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、将来的にはILCの誘致に向けて、魅力ある岩手県南の観光素材をより理解していただくための情報発信に、紙媒体のみならず、スマートフォン環境でも容易に取得できる環境づくりを官民一体となって取り組んでいただければと思っています。また、伝統工芸、農林業、食産業などすべての分野が観光分野において連携できると思うので、ぜひ横断的につながってほしい。	経営企画部 (観光商業G)	観光情報提供におけるスマートフォン対応について、県のホームページの情報を実を今後図っていくこととしたいと考えております。また、観光分野と他の分野との連携について、県南局では、観光と食産業が連携した「平泉朝食」や「平泉夕食」の取組を進めているほか、「一関市と平泉町が進める「一関・平泉地域DMO」の設立や「食と農の泉勝地」の取組などを関係部局と連携して支援しています。
8	いわて林業アカデミーの卒業生が県内に長く定着するように、それぞれの事業体でも努力するが、県のほうでも支援、指導をお願いしたい。	林務部	まずは林業就業者として就職していただくことが大事であるので、県内企業や団体に採用してもらい、その後、アカデミー卒業生を採用していただいた企業等に対して支援を行いたいと考えています。今年度は、管内の林業労働力の活性化及び定着を目指すための研修会を開催する予定です。
9	木材の供給について、合板工場への供給がストップされたというところがあるので、年間通じて安定的に供給できるような手立てはないか。	林務部	木材の供給については、安定的な供給が図られるよう木材供給会議等を通じて情報交換等を行っているところですが、合板工場等では景気や需要に応じて原料を調整する場合がありますことから、供給側においても他の販売ルートとの確保についても検討いただければと思います。
10	木材の需要が低下してくるのではないかと見通しがあるようなので、CLT工法で建てることができ住宅や工業技術が必要になってくるのではないかと。導入を早めていけば雇用にもつながるのではないかと。	林務部	CLTについては、林業技術センターにおいてアカマツを使ったCLTの製造技術開発を行っているところですが、その導入以前にまず、地元で十分な作り、材料を供給し、岩手県の木材産業を元気にすることが必要であり、CLTはその先にあるのではないかと考えています。

No.	御 意 見	内 容	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針
11	新規就農の取組について、農業法人が雇用就農という形で、大学生にインターンシップを行い、ある一定期間研修を兼ねて技術を身につけてもらい、就農を支援するという支援が広まりつつあるので、県南局でも支援をお願いしたい。	内容 農政部	内容 大学生向けのインターンシップについては、本年度の県南局地域経営推進事業（県南地域先端的経営体育成支援事業）において、新たに「インターンシップ（東北）」と連携し、東北6県の大学生を対象とした県南管内の農業法人へのインターンシップ参加誘導に取り組んでいるところです。単なる従業員としてではなく、将来的に法人経営における片腕となるような優れた人材が確保・定着するよう支援してまいります。
12	東福山麓の世界農業遺産登録を目指しているいろいろな活動を行っているが、農業を守っていくことは環境につながり、素晴らしい環境をアビールすればそれが農産物の付加価値につながり、いろいろな分野との連携で地域の活性化につながっていくのではないかと考える。	農政部	東福山麓地域の伝統的な農業システムを継承していくことは、地域の景観を始め、伝統文化、そこに生息する動植物や生態系機能の維持・保全、さらには地域資源を守ることにつながります。今後、地元住民だけでなく、都市住民、企業、NP0等多様な主体の参画による持続的な地域づくりに取り組む、世界農業遺産認定を契機とした地域の活性化を図ってまいります。
13	4年前から大学生のインターンシップを行い、一週固から10日農業体験を行っている。学生が農家に入って、見学だけでなく、一緒に仕事をし、親密に農家と関わる活動であり、この活動をもっと他の地域にも広げるよう県も一緒に取組をお願したい。一回中に入っただけでなく、他の分野においても地方に人がくる流れになるのではないかと考える。	農政部	胆沢地区のワーキングホリデーについては、受入側における負担等の課題が広がり、取組が広がっていない現状にあります。訪れた方々に地元へ戻ってからも地域の良さをアピールしていただき、応援隊の輪を広げていただくよう取組を見守るとともに、他地域でも取組が広がるよう支援してまいります。
14	ビーフステーキス北上では、昨年県の「岩手県元気な牛飼いな女子応援事業」を活用し、牛肉の消費拡大を目指して、牛肉に合うドレッシングを開発を行った。畜産農家のお母さんたちが活発に活動することで、畜産のイメージを変え、後継者育成につながっていくと考えるので、今後も事業を活発にしていきたい。	農政部	一人では解決できないことも、グループになると新しい発想・活動により解決策が見つかると可能性もあります。また、そのことが経営について、お父さんと話ができ、経営に参画できるきっかけとなつて欲しいと思っております。この事業を元気に牛飼いな女子応援事業は3年目を迎えますが、この事業を足掛かりに関係団体と連携しながら活動を継続していただきたいと考えています。
15	岩手県は成年後見制度の担い手が不足しており、この辺りでは西和賀町が成年後見制度養成講座を行っているが、北上や奥州など人口の多いところでもこのような取組みをして関わっていただければと思う。	保健福祉環境部	成年後見制度は非常に重要な制度ですが、内容が難しい部分もあり、市町村等関係機関・団体と連携して普及啓発を進めていきたいと考えています。なお、11月20日には、胆沢地区の民生委員・児童委員約350名を対象に成年後見制度の研修会を開催することとしております。また、実際に成年後見人になっていただけた方を養成する研修等についても、市町村等の関係機関・団体と連携して取り組んでいければと考えています。

御 意 見		対 応 状 況 ・ 対 応 方 針	
No.	内 容	担 当 部	内 容
16	重点施策には子育てしやすい環境整備という文言が入っているが、施策推進方針には子育てに関する施策がなく、もともと子育てについての取組みを進めていただければと思う。待機児童ゼロ作戦が打ち出され、ハードの部分ではだいぶ進んでいると考える。社会全体で子育てをすることについて意識を変えようという啓発活動をお願いしたい。	保健福祉環境部	育児休暇取得促進の面からも、保育士の確保の面等からも、地域での子育てを支える関係機関・団体と連携して進めていきたいと考えています。なお、仕事と子育ての両立のため男女が共に働きやすい職場づくりに取り組みむ中小企業等を知事が認証する「いわて子育てにやさしい企業等認証」について、今年度、胆江地区で新たに3事業所を認定しました。
17	道路交通網インフラについては、産業上生産性の向上に密接に関わるので、4号線4車線化期成同盟会を中心に国への働きかけをお願いしたい。	土木部	一般国道4号の4車線化について、一般国道4号は岩手県の大動脈であり、各地域の期成同盟会とも連携しながら、国へ要望をしていきます。
18	非常に広い岩手県であるので、内陸部から見ると、横軸の国道果道の整備に取り組んでいただきたいと感じる。奥州市から大船渡市、陸前高田市方面、花巻・北上エリアから遠野市を經由して金石市市に抜けるルートなど進められているが、早期に高機能高規格で整備をお願いしたい。	土木部	内陸と沿岸をつなぐ主要な道路について、震災をきっかけに復興道路及び復興支援道路として指定し、早期開通に向けて取り組んでいるところです。
19	今年の2、3月頃に金ヶ崎工業団地と北上の南の工業団地をつなぐ路線が開通し、アークセブスが向上したいへん感謝している。機能向上のために、金ヶ崎工業団地を中心に江刺の工業団地にもアークセブスする県道の整備をさらに進めていただければと思う。	土木部	工業団地間のアークセブスについては、そのあり方について、今後市町の意見を聞きながら一緒に考えていきます。
20	西側に抜ける北上市から秋田道について、自動車専用道路はあるが、その下の107号線蒲刈付近が冬場難所になっている。先般の土砂崩れの時には、迂回として自動車専用道路を使わせていただいていた2つルートがあったからよかったが、冬場はどちらでも通行できない可能性もあるので、107号線の更なる整備が必要と感じている。	土木部	107号線については、根本的な整備はなかなか難しい状況ですが、安全安心を高めるために今般土砂を防ぐためのロックシエツドを整備したところであり、今後安全な通行の確保に努めていきます。なお、今回の土砂崩落のように、通行止めが生じた場合は、速やかに自動車専用道路を無料開放するなど、今回と同様に対応をしていきたいと考えています。
21	花巻空港について、海外とのインバウンドという点では、国際線に乗り継ぐ便を格安運賃にするなど、そういう視点から世界とつながるといったこともインバウンドの一つのきっかけと思うので検討していただければと思う。	土木部	まずは国内便を増やすと共に、国際便は台湾を中心に利用拡大しながら、更なる利便性向上に向けて努めていきます。
22	地震・洪水・土砂災害対策の推進について、昨年初めて岩手県に台風直撃という災害が発生したが、今回のような台風の直撃が今後来たときに大丈夫な計画なのかということも、倒壊する建物も含めて考えていかなければならない。ハードでお金をかけて作るというのには時間もかかるので、ソフトの面でできることをしっかりとコミュニケーションして、命を守ることを伝えていくということをやぜひ各市町交えて考えてほしい。	土木部	河川の整備は一定の計画規模により行うことから、洪水に耐えられる限界があることから、洪水の危険性が高まったときに、住民にお知らせして避難していただくことに取り組んでいきます。具体的には、市町村が適切に避難勧告を出せるように、河川管理者から市町村長に直接避難水位の連絡を入れるホットラインが6月1日から運用されています。

No.	御 意 見	対 応 状 況 ・ 対 応 方 針
	内容	内容
23	通学路における歩道整備について、歩道がでぎなければ危険という状態を継続するのではなく、致命的なことが起きる前に、地域や学校の要望を確認し、警察などとも連携して、危険な箇所に工夫をすすという知恵を出し合い、子供たちの安心安全を守ってほしい。	歩道については、地域等から多くの要望をいただいております。一度を勘案しながら、順次整備していきたく考えています。
24	道路整備について、最近岩手県でシカが増えているので対策が必要と考えている。	動物が頻繁に出てくるところがあれば、注意喚起の看板を設置するなど対策を講じていきますので、情報提供をお願いいたします。
25	岩手県で再生可能エネルギーを推進していると思うが、メガソーラーや風力発電所が臨立し、景観的にも問題があると思う。環境の面でも風力発電だとパードストライク等の問題とか野生動物に与える影響も大きいと思う。	再生可能エネルギーの導入については、温室効果ガスの削減等の環境改善から重要な取組ですが、例えば風力発電については、野鳥が風車に衝突死するパードストライク等も懸念されることから、関係者から意見を聞きながら進めていかなければならぬと考えています。
26	スポーツ合宿の受け入れ態勢の整備や旅行エージェンツの招聘などの施策で、エリアでプロモーションできればエリア全体のイメージアップにつながるのかもしれないと感じている。今後広域圏の皆さんを呼び寄せるために、スपोर्टスによる集客（県外から、国外から）はもっと注力してほしい。	今年度、市町スポーツ関係課等の協力を得ながら、県南圏域市町へのスポーツ合宿等誘致事業を実施したところですが、今後、参加者から更に意見を伺い、市町、関係団体と連携を図りながら誘致に向けた課題解決とPRに取り組みしていきます。
27	文化による地域振興の分野について、未来の文化芸術を担う人材の育成を支援する施策として、企画をしてコアティネットができる人材の育成というところを目標にしたいと思う。	今年度地域活性化塾という事業を新規で開催します。その中で、文化スポーツだけでなく、いろいろな分野で活躍されている方が相互に交流して刺激し合えるような取組を考えています。活用いただけると考えています。
28	文化芸術情報の配信については、どうやったり補助金をとれるかというような情報発信や、国などに書類を出すときの書き方についての情報発信をしてもらえば、各種団体が助成金など情報活用して地域振興につなげていけるのではと感じている。	今年度、県では今年、若者文化祭を開催したほか、振興局こと若者文化関連イベントへの補助を実施したところであり、今後も若者の活躍の場を支援できればよいと考えています。